



安全品質の取組みについて ～人身・設備・交通事故の撲滅に向けて～



株式会社つうけん

1. はじめに

（株）つうけんでは、「こころと技術で社会のために」のコーポレートスローガンのもと、安全第一を基本とし、お客様の満足を得る高信頼の情報通信ネットワークの構築とサービスの提供に努め、地球環境に優しい事業活動をとおして、地域環境へ貢献し事業の永続的發展を目指しております。

平成29年度の弊社安全品質向上計画は「事後の安全から予防安全への転換」を目的に自社および協力会社が現在抱えている課題の改善を「人身事故防止」「設備事故防止」「交通事故防止」「品質向上」「お客様情報漏洩事故防止」の各項目について取り組んでおりますので、その一端を紹介致します。

2. 安全施工サイクル実施に向けた取組み

平成28年7月より構造改革ガイドラインに基づいた安全施工サイクルが各事業所でも実施され、当社においても安全監査により、履行状況の確認を行いました。

当社の安全施工サイクルの流れと毎日の施工サイクルを紹介致します（図1）。

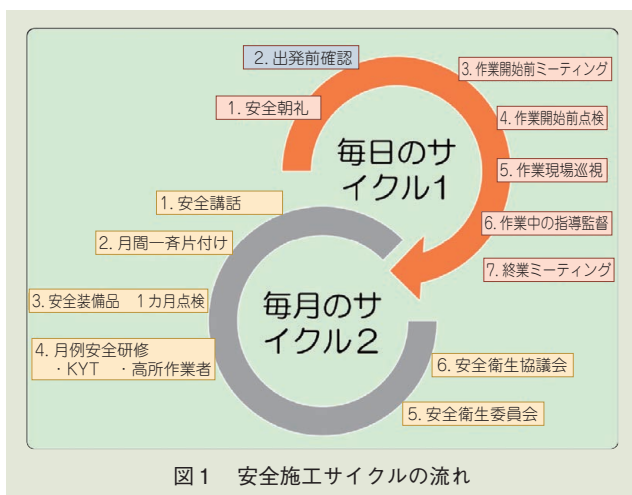


図1 安全施工サイクルの流れ

(1) 安全朝礼

つうけん社員と協力会社の現場作業員相互が直接対面して各種周知事項の伝達や指示・指導を行うことで有機的なつながりが生まれ、作業員個々の状況を双方向で確認しながら相手との絆を深めることにより、一体感と安全意識を高めるために安全朝礼を実施しています（写真1）。

朝礼の様子



朝礼時安全点検



写真1 安全朝礼の実施状況

点検用ポケットマニュアル

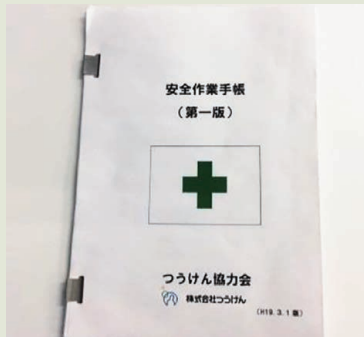


写真2 出発前の日常点検状況

安全帯点検



架空ケーブル新設工事



写真3 作業現場巡視 (安全パトロール) 状況

電柱新設工事



安全施工サイクル活動記録【アクセス】

安全朝礼から終業ミーティングまで一日の活動記録を一枚に記入する様式

図2 安全施工サイクル活動記録表

(2) 出発前確認

事務所、倉庫・車庫等で各種書類の事前確認や各種機器、工具・車輛の日常点検を実施し、作業現場での不備、不具合による手戻りや不安全行為を防止するとともに工事に...

当社では、円滑かつ漏れのない点検をできるように安全器具工具の点検ポケットマニュアルを作成し、協力会社の作業者に配布しました (写真2)。

(3) 作業開始前ミーティング

当該現場での作業内容、役割分担、現地の状況やリスクを交通誘導員を含めた施工班全体で認識するために施工班全体で実施し、施工班長が具体的な安全対策を指示して...

(4) 作業開始前点検

現場作業環境、車輛等の設置状況から工事看板、保安施設の状況および交通誘導員の誘導位置等、点検項目に従い定期的に点検して作業現場全体の安全を確保するた...

めに実施し、その内容は安全施工サイクル活動記録に記録します (図2)。

(5) 作業現場巡視 (安全パトロール)

現場に存在する顕在化または潜在化している不安全的状態や環境、不安全な行為を発見し、改善・是正を行い事故を未然に防ぐために実施します (写真3)。

(6) 作業中の指導・監督

危険作業指導監督員を以下の作業を行う箇所に配置し、作業現場で「指導・監督」業務を実施します。

- 電力線に接触する恐れのある箇所でのクレーン作業
・ 3 t以上の重量物を取り扱うクレーン作業
・ 鉄塔塗装工事等で必要な足場の組立て解体作業
・ その他現場代理人が認めた危険を伴う作業 (軌道横断、宙乗り作業 等)

(7) 終業ミーティング

一日の作業終了後、施工班長が作業の点検をし、その内容から作業員全員が揃って当日の作業を振り返り、作業で気付いた点等の共有と改善につなげます。



3. 協力会社安全監査

当社では、平成26年から協力会社（134社）との関係における「あるべき姿」を検討した結果、会社種別認定制度を導入しております。

内容的には会社の種別により、つうけん施工管理要員の間接稼働の差が大きいので、外注工事価格に反映するもので、その反映度は1種を100%としたとき、2種は98%、3種は96%になります。

会社種別と定義について以下に記載致します。

① 1種会社（37社）

- ・線路・土木工事においては、1発注図面に対し、自社にて自己完結できる法人会社
- ・宅内工事においては、光・メタル・局内の一連の工程を自己完結できる法人会社

② 2種会社（60社）

1種以外の法人会社

③ 3種会社（37社）

個人事業主（一人親方）、夫婦、親子

今回実施した協力会社の安全監査は、上記の協力会社のトップの安全に対する考え方をヒアリングするとともに「労働環境」「安全マネジメント」の実施状況を定量的に確認し、今後のつうけん社の安全活動計画に反映するために実施致しました。

監査の結果は、以下のレーダーチャートに示すように会社種別により安全活動にレベル差がありましたので、今後は、今回確認された弱点項目については個々の会社別にフォローアップを行い安全レベルの底上げを図るとともに良好な会社には、監査内容の充実を行い「協力会社安全監査の深化」を図ります（図3）。

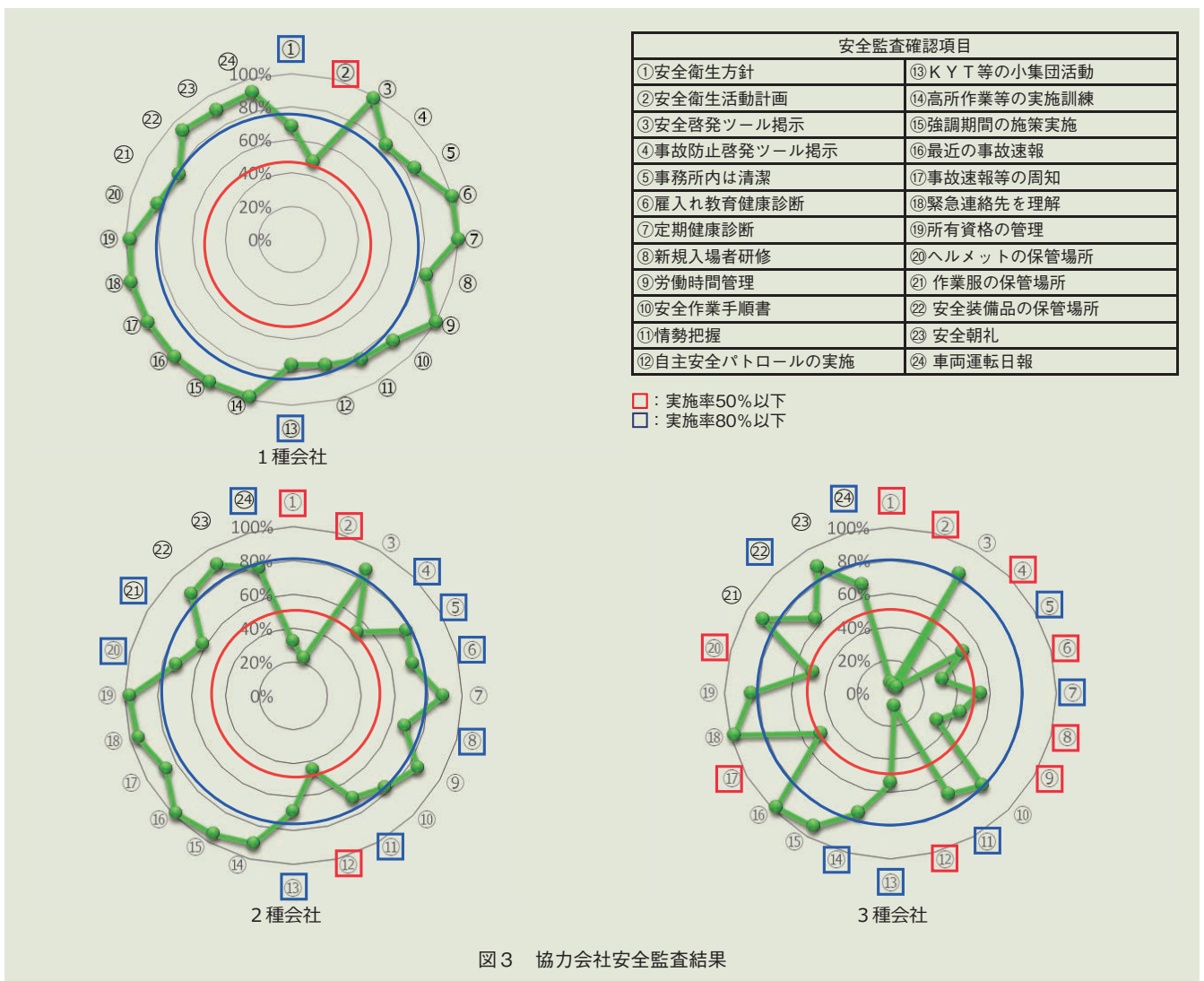
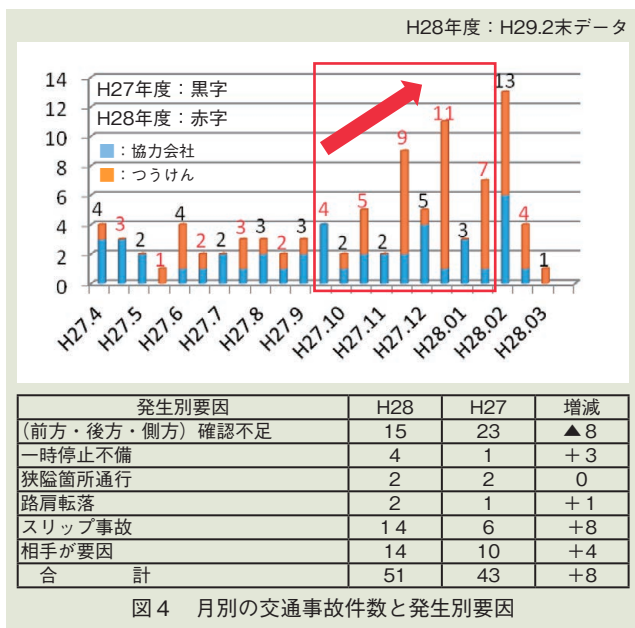


図3 協力会社安全監査結果

4. 交通事故撲滅に向けた取組み

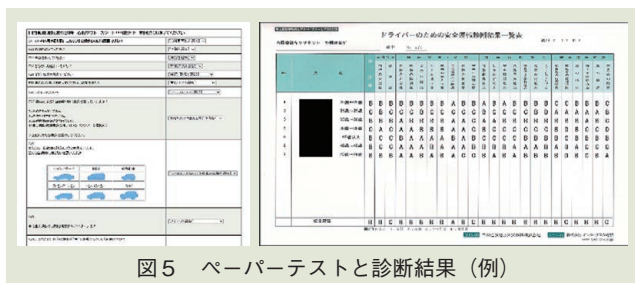
降雪が例年より早かった事が要因の1つなのかも知れませんが10月以降、協力会社を含めたつうけんグループ社員の交通事故が多発している事から「NTTグループ下期安全推進強化期間」に併せて交通事故撲滅施策を展開した後に、つうけん社として「交通事故撲滅期間」を引き続き設定して、交通事故撲滅に向けた取組みを実施しました（図4）。



取組期間は、平成28年12月1日～平成29年2月28日までの3カ月間で施策は以下になります。

①安全運転適正診断（ペーパーテストによる診断）

つうけん、協力会社社員を対象に2,359名実施しました（図5）。



②交通安全セミナーの受講（社外講師の派遣）

全事業所で延べ14日間、23回実施して約1,300名の方に受講していただきました（写真4）。



③安全運転シミュレーター（適正診断DBを活用）

運転適正診断の結果や運転経験が少ない社員、受講希望者の中から対象者を絞り込んで約240名の方に実施していただきました（写真5）。



④交通事故KYT

当社車両に設置しているドライブレコーダー記録、JAFのHPに掲載されているKYTDBを活用し設定期間中に



延べ3,494名の方が実施しました（写真6）。

⑤交通事故事例の周知と交通事故DVD視聴

当社で過去に発生した交通事故事例、北海道警察で公開している事故DVDを朝礼等を活用して周知・視聴を行いました（写真7）。



5. おわりに

昨年度もTeamつうけんとして一丸となって「人身事故・設備事故・情報漏洩事故」“0件”を目指してさまざまな活動を行いました。事故の撲滅には至っていません。

その原因の多くは基本動作の徹底が現場作業員の1人ひとりにまで浸透していないことが大きな要因になっております。

元請会社として協力会社が実施している現場作業を直視するとともに協力会社と一体となった危険要因の低減施策を実施し続けることにより、安全活動のスパイラルアップを図って行きます。

また、現在の安全専任者・安全管理員はベテランの社員が配置されてきましたが、高齢化等もかんがみ、若手の現場代理人等に向けた安全法令や安全専任者研修も計画に組み込み、後任育成にも取り組んで行きます。